

2020 年度 環境経営レポート



対象期間：2020 年 9 月 1 日～2021 年 8 月 31 日

作成日：2021 年 10 月 23 日

廣間組有限会社

目次

目次	p.1
ご挨拶	p.2
環境経営方針	p.3
会社概要	p.4～p.5
環境経営目標（中長期目標）とその実績	p.6
環境経営活動計画の内容・取組み結果の評価	p.7～p.19
コミュニケーション及び防災・教育	p.20～p.21
生物多様性・低炭素化社会・循環型社会への挑戦	p.22～p.23
次年度環境経営活動計画表	p.24
環境関連法規制等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	p.25
代表者による全体評価と見直し結果	p.25



ご挨拶

弊社廣間組有限会社は、徳島県南部の那賀川上流に位置する那賀町木頭（旧木頭村）に所在しております。木頭は徳島と高知の県境でもあり、四季折々の自然環境に恵まれたとても美しい所で、全国に誇る歴史と様々な伝統が残っています。弊社は、ここ木頭で創業より公共土木工事に携わり、林道開設や予防治山、国道整備や災害復旧など、地域のライフラインを担う大変重要な仕事をさせて頂いておりましたが、近年の不景気の波は弊社にも等しく訪れました。「このままではいけない、何かを変えなければならない」そのような思いの中、これまで弊社を育ててくれた地域や環境、自然を見るにつれ、環境豊かなこの地で生きる自分達だからこそできる事は何か、やらなければならない事は何か、そんな事を考えるようになりました。

そんな中、EA21地域事務局のグリーン化プログラムに参加した事がきっかけで、エコアクション21の『環境経営』という考え方に強く共感を覚え、この『環境経営』こそが、今後の弊社の、そして地域の大きな魅力になると考え、平成23年5月の認証・登録から今日まで環境経営を推進して参りました。その結果、第17回、第19回、第20回、第21回の環境コミュニケーション大賞において、全国に名だたる優良企業の皆様とともに、『環境活動レポート部門優秀賞』または『環境活動レポート部門優良賞』を受賞し、部門の名称が変更になった第22回、第24回では『環境経営レポート部門優良賞』を受賞することができ、弊社の活動を更に推進・発展させる大きな力となっております。これにより、平成27年度から『山櫻プロジェクト』という新規事業を立ち上げ、エコアクション21において三大テーマともいえる、（生物多様性）（低炭素化社会）（循環型社会）の実現を弊社なりに推進させていく活動を始めました。プロジェクトも少しずつではありますが、確実に実績と成果が上がってきております。

弊社は地方の一中小企業に過ぎませんが、企業の大小や活動の大小に捉われず、出来る事や小さな事からコツコツと、継続し発展させていく事が地方企業の環境経営において最も大切な事であると考えております。今後も地方の建設業界は厳しい見通しではありますが、社員一丸となり環境経営に尽力致したい所存でございます。

以上簡単ではございますが、ご挨拶と控えさせていただきます。



廣間組有限会社

代表取締役 西田静男

環境経営方針

□ 基本理念 – philosophy –

廣間組有限会社は、当社の事業活動に伴う地球環境への負荷に対し正しい知識を備え、これを最大限に活かす意識と知恵を持って、主体的な削減活動に取り組み、持続可能な環境経営システムを構築する事で、生活環境や生物多様性の保全、地球環境との共生文化を次世代へ継承し、強く美しい日本社会の実現、さらには国際社会全体におりなす地球環境問題に貢献します。

□ 行動指針 – Standards of Conduct –

- 一、 私達は、常に基本理念に基づき行動し、基本方針に沿った事業活動を行います
- 二、 私達は、常に地域社会の一員である事を自覚し、一人々が責任を持った行動をします
- 三、 私達は、常に学び向上し、時代に通用する人材の育成と自己開発に努めます
- 四、 私達は、常に事業活動の改善を心掛け、より良い環境経営を目指します
- 五、 私達は、常に個人を尊重し、他者に敬意を払い、謙虚な姿勢で仕事に取り組みます

□ 基本方針 – basic policy –

1. 当社の事業活動及び製品・サービスに関わる地球環境への負荷と影響を常時認識し、社員全員で環境経営に取り組み、生活環境や生物多様性の保全、地球環境への負荷を削減する事に努めます。
2. 当社の事業活動及び製品・サービスに関わる環境関連の法令、徳島県条例、那賀町条例、その他法規を遵守します。
3. 当社の事業活動及び製品・サービスに関わる環境影響について、以下の項目を環境管理重点テーマとして掲げ、この削減及び低減に取り組みます。

①二酸化炭素排出量

（電力使用量、ガソリン、軽油、灯油等石油系燃料使用量の削減）

②水資源使用量（排水量）の削減

③廃棄物の削減及びリサイクルの推進

④事務所紙資源の削減及びリサイクルの推進

⑤事務所周辺の清掃及び地域貢献活動（ボランティア）の推進

⑥グリーン購入の推進

⑦環境配慮商品・サービスの提供並びに施工の推進

⑧ICT 施工の推進

上記の方針達成と環境経営活動を推進する為に、確固たるビジョンを含めた**V-PDCAサイクル**によるスパイラルアップを仕組み付け、激変する社会ニーズや地球環境に対し、柔軟かつ迅速に対応する事のできる環境経営システムを構築し、これを維持発展させ続けます。

また、本環境方針は全従業員及び取引先に周知すると共に環境経営レポート等で社外へも公表致します。

制定日:平成 22 年 8 月 31 日

改定日:平成 29 年 9 月 1 日

廣間組有限会社 代表取締役 西田 静男

会社概要

名称及び代表者名

廣間組有限会社 代表取締役社長 西田 静男

環境管理責任者及び担当者

【環境管理責任者】西田 靖人〔mail〕y-n@hiromagumi.co.jp

【環境事務局】岡脇 麻美〔mail〕m-o@hiromagumi.co.jp

事業内容

【特定建設業】土木工事業、とび・土工工事業、舗装工事業、
水道施設工事業、しゅんせつ工事業、解体工事業

【一般建設業】建築工事業、管工事業

【運送事業】一般貨物自動車運送事業

事業規模

操業	昭和33年11月22日	設立	昭和47年 2月 2日
資本金	3500万円	完工高	24266万円
従業員数	17名	事業所床面積	70m2

事業年度

令和2年9月～令和3年8月

当社は、産業廃棄物収集運搬業許可（有効期間：令和元年12月20日～令和6年10月28日）を有しているが、令和2年度分においては、この事業実績はありませんでした。この為、現状ではこの業については、EA21 認証・登録の対象外となっております。

所在地

【本社事務所・本社営業所】

〒771-6402

徳島県那賀郡那賀町木頭出原字忒ノト28-1

〔TEL〕0884-68-2320〔FAX〕0884-68-2014

〔mail〕hiromagumi@tk2.nmt.ne.jp

〔HP〕<http://www.hiromagumi.co.jp>

〔facebook〕<https://www.facebook.com/hiromagumi>

〔Twitter〕<https://twitter.com/Hiromagumi>

〔Instagram〕<https://www.instagram.com/hiromagumi/>

【棚谷倉庫A】

〒771-6511 徳島県那賀郡那賀町木頭折宇字棚谷78-6

【棚谷倉庫B】

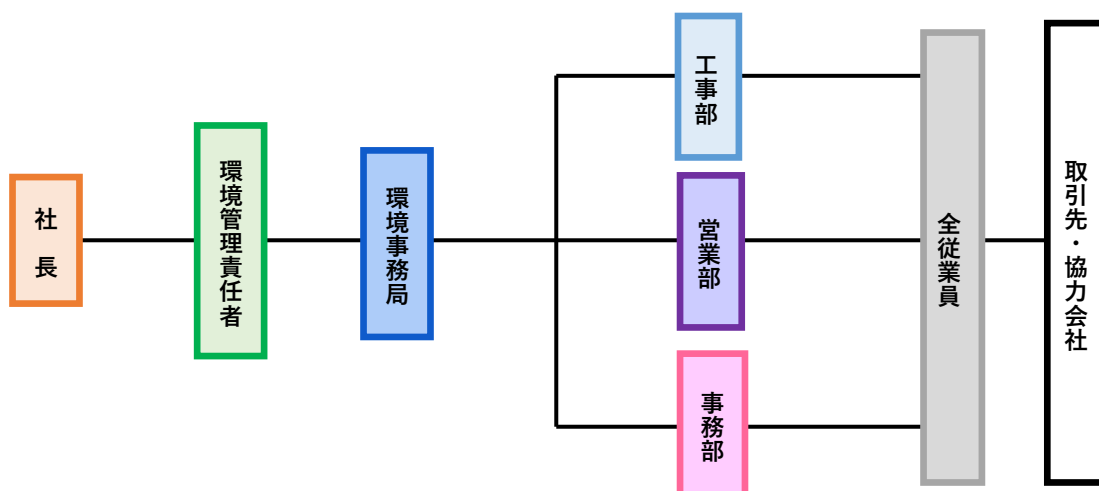
〒771-6511 徳島県那賀郡那賀町木頭折宇字棚谷51-2

【自動車車庫】

〒771-6511 徳島県那賀郡那賀町木頭折宇字棚谷口2-1,4,5-1,5



～環境経営システム実施体制図～



役職	氏名	役割・責任・権限
社 長	西田 静男	・環境経営に関する統括責任 ・EMS の実施及び管理に必要な人、設備、費用、、時間、技術者を用意 ・環境管理責任者を任命 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境目標の設定を承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施
EA21 推進会議	(議長) 松本恭典	・EA21 推進会議を開催し、管理・運営を行う ・内外部とのコミュニケーションを組織で共有し、EMS のスパイラルアップの定着化を推進 ・EA21 推進会議記録の作成と周知および保管
環境管理責任者	西田 靖人	・EMS を構築し、実施および管理を行う ・法規制等の要求事項登録簿を承認、及び遵守チェック ・環境活動実施計画書を承認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告
環境事務局	岡脇 麻美	・環境管理責任者の補佐 ・環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・「環境関連法規等チェックリスト」の作成、及び遵守チェック ・環境目標・環境活動実施計画書原案の作成 ・環境活動実施計画の実績集計 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口
部門長	(事務部) 岡脇 麻美	・自部門における EMS の実施 ・自部門における環境方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境目標及び環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成及びテスト・訓練・記録 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置
	(営業部) 松本 誠	
	(工事部) 道中 忍	
全従業員	各 自	・環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

環境経営目標（中長期目標）とその実績

	項 目	単 位	総量/ 原単位	2019 年度 実 績 基準値	2020 年度 目 標 (1%削減)	2020 年度 実 績	2020 年度 達成率	2021 年度 目 標 (1.5%削減)	2022 年度 目 標 (2%削減)	2023 年度 目 標 (2.5%削減)
事務所	1. 二酸化炭素排出の削減	kg-CO2/年	総量	13288.6	13155.7	10130.6	129.9	13089.3	13022.8	12956.4
			原単位	5211.2	5159.1	4221.1	122.2	5133.0	5107.0	5080.9
	2. 燃料使用量の削減	L/年	総量	135493.3	134138.4	85686.7	156.5	133460.9	132783.4	132106.0
			原単位	53134.6	52603.3	35702.8	147.3	52337.6	52071.9	51806.3
	3. 電力使用量の削減	KW/年	総量	71641.0	70924.6	77096.7	92.0	70566.4	70208.2	69850.0
			原単位	28094.5	27813.6	32123.6	86.6	27673.1	27532.6	27392.2
	4. 水資源使用量の削減	m3/年	総量	305.0	302.0	243.0	124.3	300.4	298.9	297.4
			原単位	119.6	118.4	101.3	116.9	117.8	117.2	116.6
現場	5. 廃棄物の削減(一般)	t/年	総量	0.081	0.080	0.060	133.0	0.079	0.079	0.079
			原単位	0.032	0.031	0.025	125.2	0.031	0.031	0.031
	6. 事務所紙使用量の削減	枚/年	総量	32296.0	31973.0	46088.0	69.4	31811.6	31650.1	31488.6
			原単位	12665.1	12538.4	19203.3	65.3	12475.1	12411.8	12348.5
	7. 事務所周辺の清掃及び地域貢献活動の推進	回/年	-	50.0	50.0	50.0	100.0	50.0	50.0	50.0
	8. 環境配慮商品並びにサービス提供の推進	数/年	-	50.0	50.0	50.0	100.0	50.0	50.0	50.0
	1. 二酸化炭素排出の削減	kg-CO2/年	総量	140173.5	138771.8	264945.2	52.4	138070.9	137370.0	136669.2
			原単位	54970.0	54420.3	110393.8	49.3	54145.5	53870.6	53595.8
	2. 燃料使用量の削減	L/年	総量	2057006.8	2036436.8	3893794.4	52.3	2026151.7	2015866.7	2005581.7
			原単位	806669.4	798602.7	1622414.3	49.2	794569.3	790536.0	786502.6
	5. 廃棄物の削減(産業)	%/年	-	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	7. 事務所周辺の清掃等社会貢献活動の推進	回/年	-	53.0	53.0	53.0	100.0	53.0	53.0	53.0
	8. 環境配慮製品・サービス提供並びに施工の推進	件/年	-	12.0	12.0	12.0	100.0	12.0	12.0	12.0

※ 項目（1～6）については、2019 年度の実績を基準とし、その基準値から 2020 年度までに 1%、2021 年度までに 1.5%、2022 年度までに 2%、2023 年度までに 2.5%の削減を目標とする。

※ 電力の二酸化炭素排出係数として、四国電力(平成 29 年度)の調整後排出係数 0.535kg-CO2/kWh を使用した。

※ 現場においては、電気および水（上水）の使用無し。

達成率		1	2	3	4	5	6	7	8
事務所	総量	達成	達成	未達成	達成	達成	未達成	達成	達成
	原単位	達成	達成	未達成	達成	達成	未達成	達成	達成
現場	総量	未達成	未達成				達成	達成	達成
	原単位	未達成	未達成				達成	達成	達成

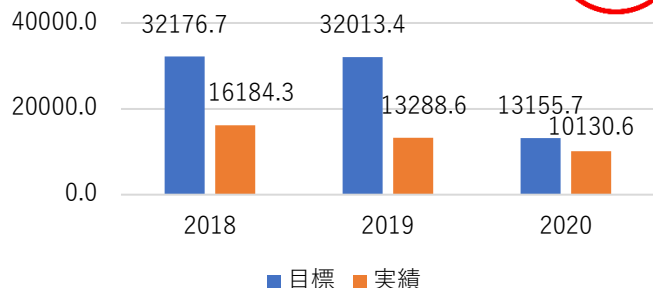
環境経営活動計画の内容・取り組み結果の評価

～1.二酸化炭素排出の削減～

事務所

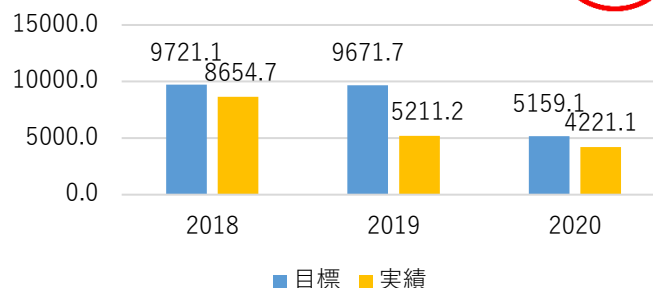
二酸化炭素排出の削減(総量)

達成

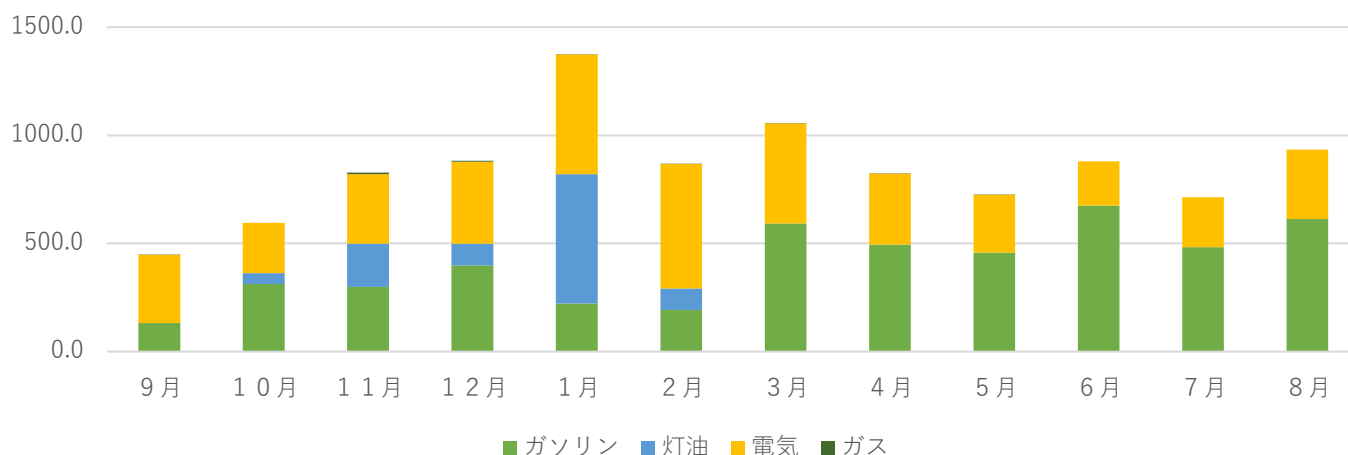


二酸化炭素排出の削減(原単位)

達成



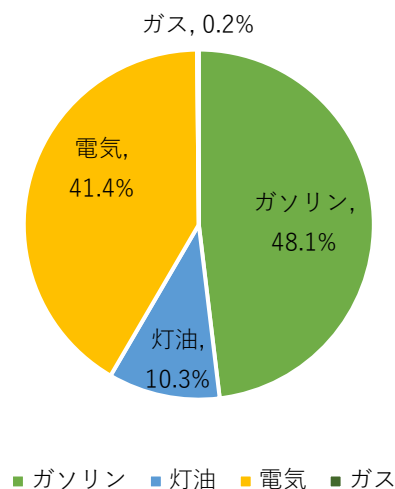
二酸化炭素排出量 (月)



一評価一

目標を達成することが出来ました。
ガソリンと電気の二酸化炭素排出量が
40%以上を占める結果になりました。ま
た、1月の灯油の増加は12月の終わりか
らマイナス気温が続いたことが増加の原因
だと見ています。冬の灯油をなるべく削減
できるよう努力していきたいです。

二酸化炭素排出量 種別割合

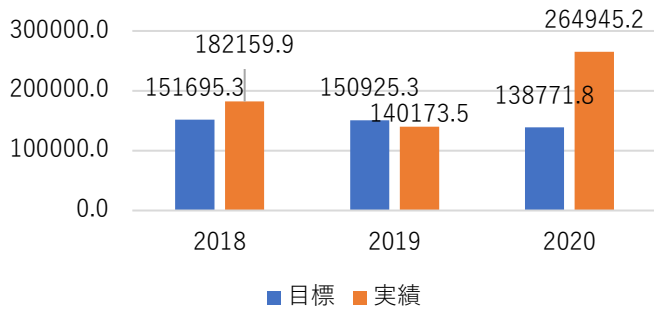


～1.二酸化炭素排出の削減～

現場

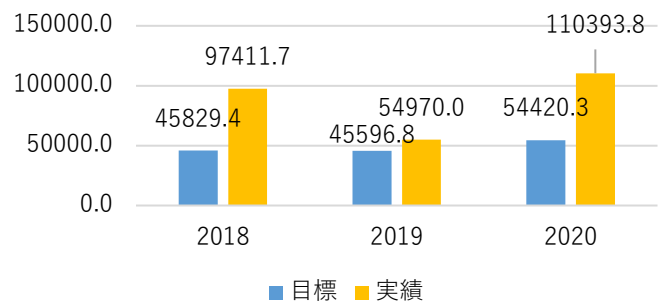
二酸化炭素排出の削減(総量)

未達成

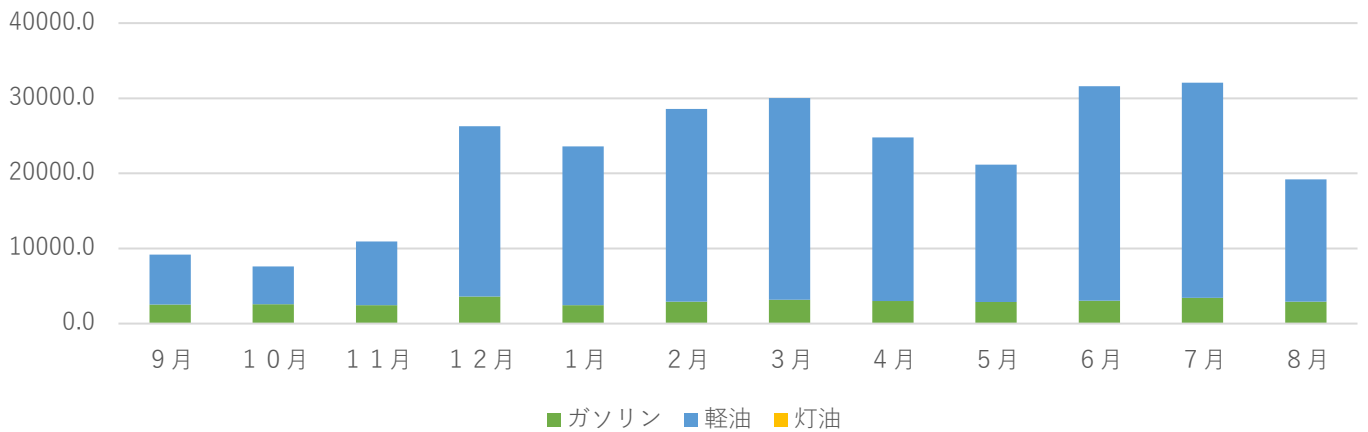


二酸化炭素排出の削減(原単位)

未達成



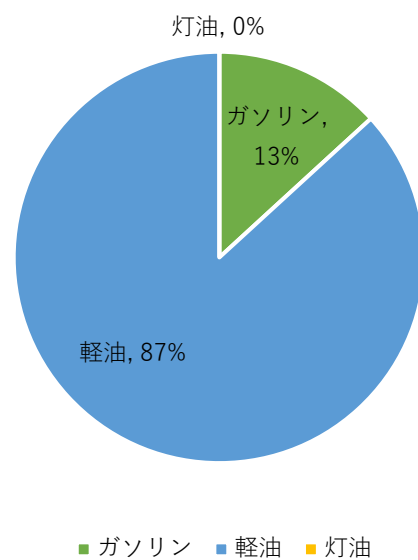
二酸化炭素排出量 (月)



一評価一

目標を達成することができませんでした。軽油とガソリンの使用量の増加により、二酸化炭素排出量も多くなりました。軽油も昨年より多いですが、今回はガソリンも増加し、昨年よりも倍になってしまいました。工事内容によっては難しいですが、削減できるよう努力していきたいです。

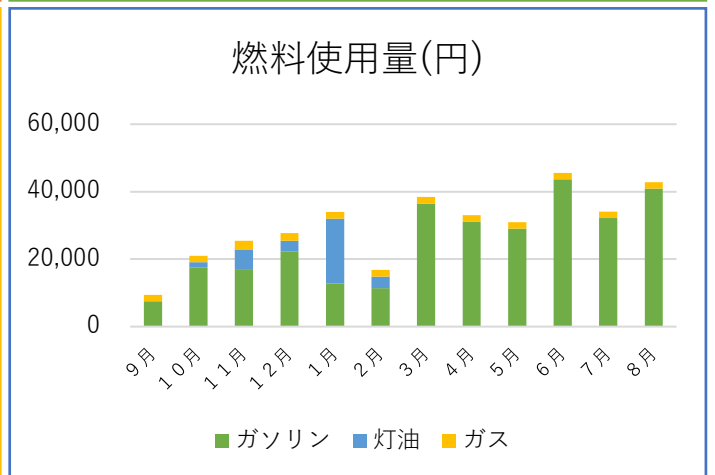
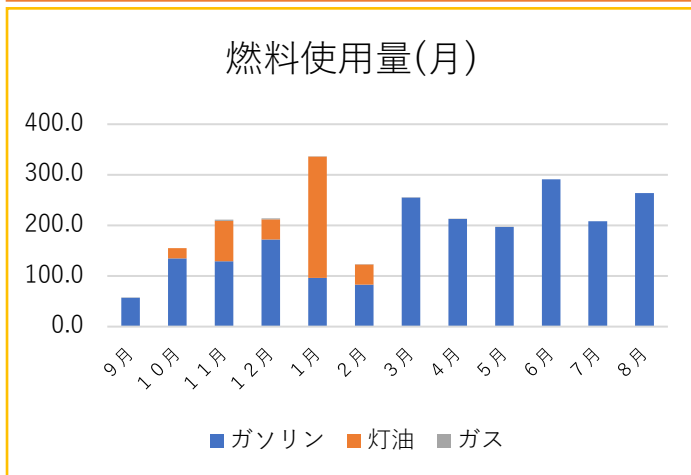
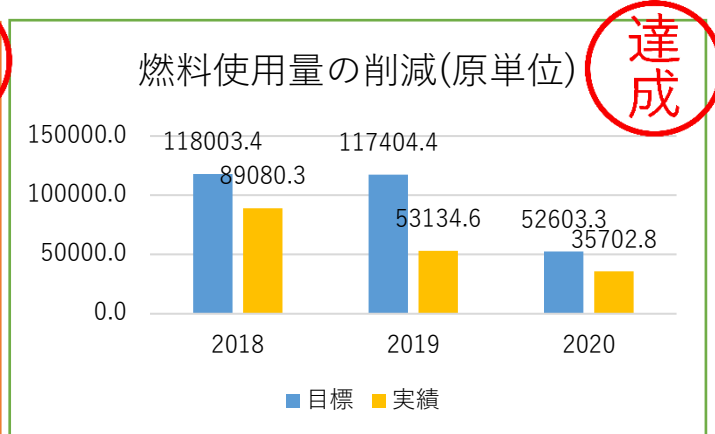
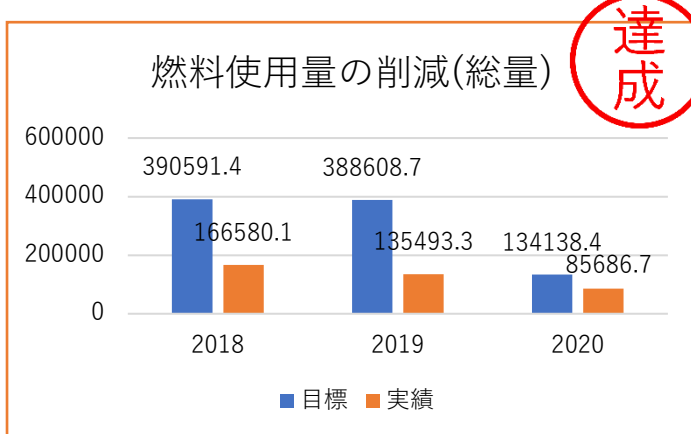
二酸化炭素排出量 種別割合



～2. 燃料使用量の削減～

事務所

取組内容	評価	評価
通勤車両の日常点検	△	日常点検を忘れる日があった。
エコドライブ10の実施	○	実施できた。
高燃費・低排出ガス車の使用	○	実施できた。
乗り合わせの励行及び車内温度の自然調節	△	温度調節が難しく、エアコンをつけた日が多々あった。



通勤車両の日常点検中

エコドライブ掲示

一評価一

目標を達成することが出来ました。

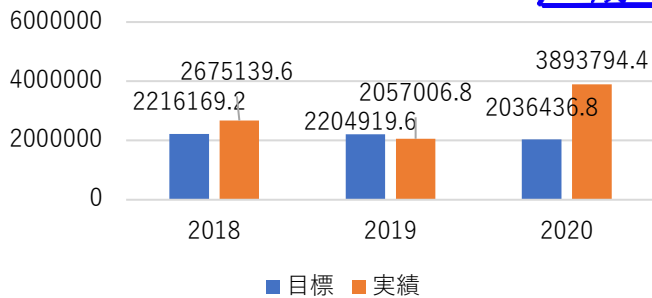
1月の灯油の使用量が増加し、3～8月は打ち合わせ場所等が遠く、ガソリンの使用量が増加しました。今回の灯油の使用量増加の踏まえ、今後も継続して削減を行ってまいります。

～2. 燃料使用量の削減～

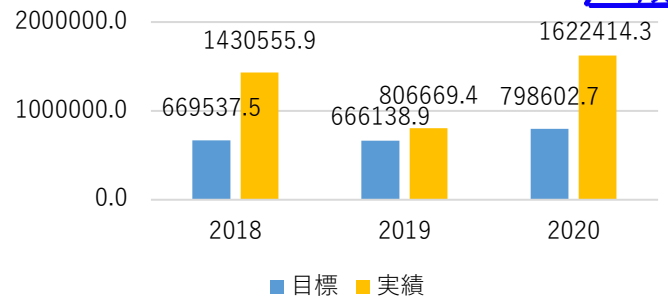
現場

取組内容	評価	評価
重機車輛の日常点検	○	実施できた。
エコドライブ10の実施	○	実施できた。
低騒音・排出ガス対策車の使用	○	実施できた。
乗り合わせの励行及び車内温度の自然調節	△	現場が山の上などで自然調節が難しかった。

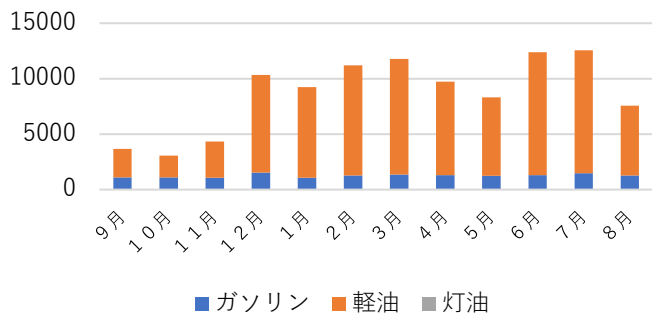
燃料使用量の削減(総量)



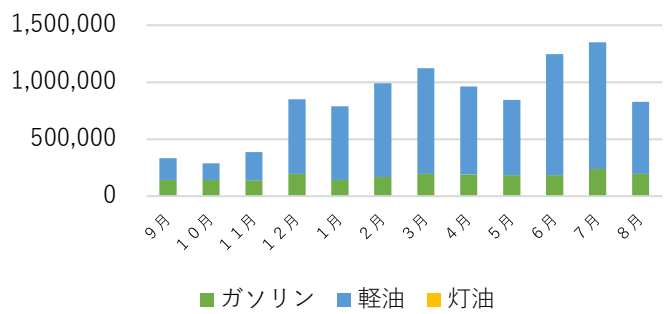
燃料使用量の削減(原単位)



燃料使用量(月)



燃料使用量(円)



低騒音・排出ガス対策車



重機の日常点検中



—評価—

目標を達成することができませんでした。

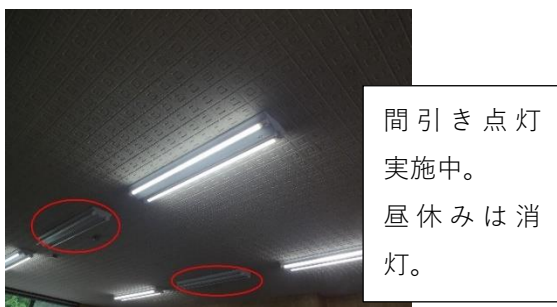
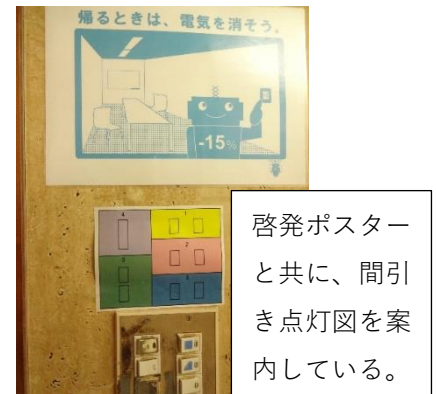
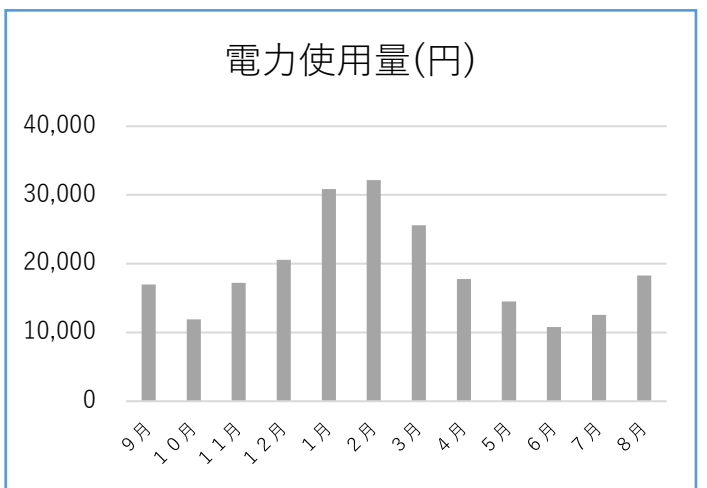
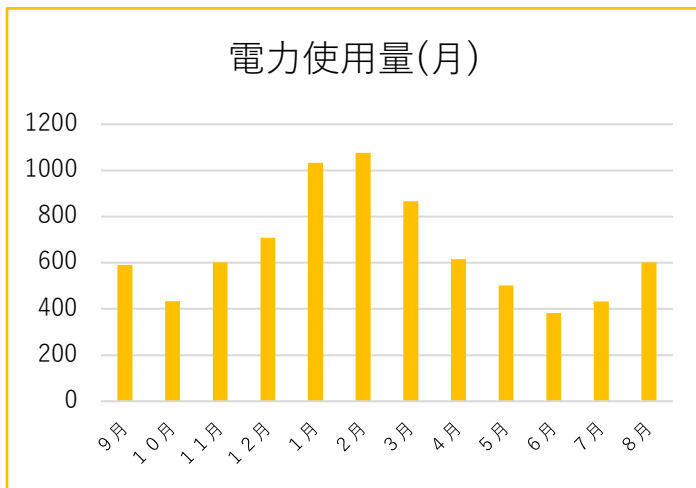
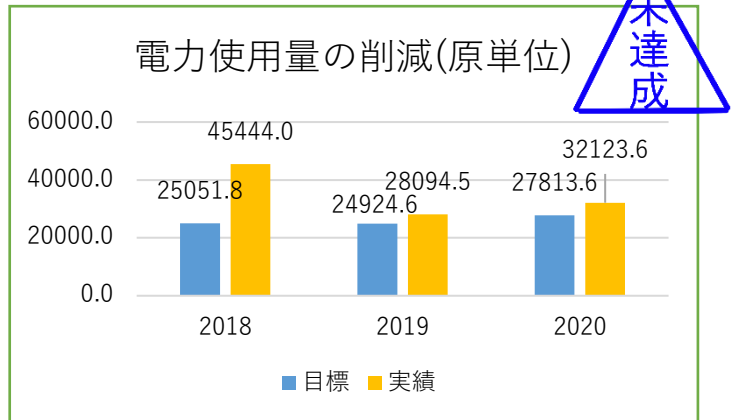
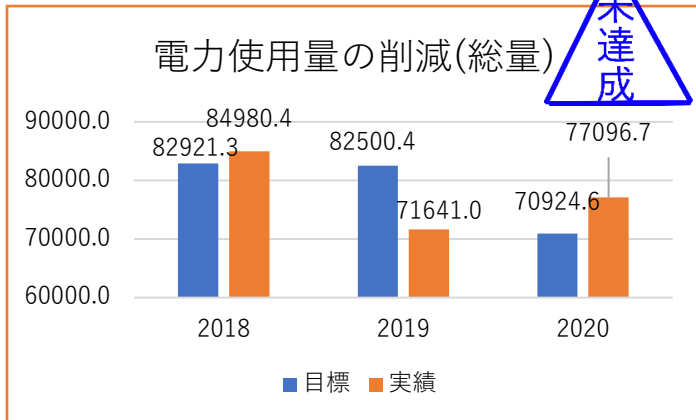
工事内容などにより燃料の使用が変わることがありますが、今回は河川工事により砂利除去のダンプ運搬が多かったため軽油の使用量が上がりました。今後は目標達成できるように努力していきたいです。



～3. 電力使用量の削減～

事務所

取組内容	評価	評価
OA 機器の節電啓発	○	実施できた。
事務所の間引き点灯を行う	○	実施できた。
節電啓発ポスターを掲示する	○	実施できた。
エアコンの温度設定（冷房 28℃、暖房 20℃）	△	温度を変更した時がある。



一評価一

目標を達成することが出来ませんでした。
冬の寒い時期の暖房や消灯を忘れることがあったのが原因だと思っています。今後は冬の暖房器具などを最新にするなど電力の使用量を抑えるように検討していきたい。

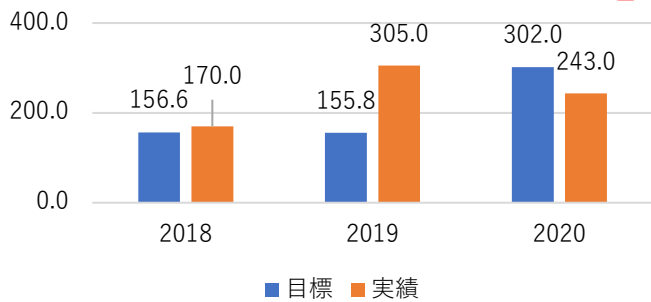
～4. 水資源使用量の削減～

事務所

取組内容	評価	評価
雨水を利用し、節水を行う	△	雨水を貯めるのを忘れることが多かった。
水量調節ホースの使用	○	実施できた。
節水啓発ポスターを提示する	○	実施できた。

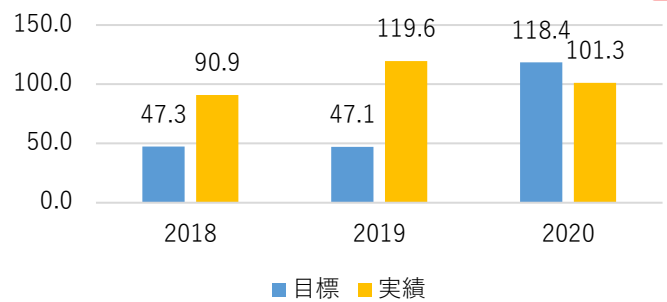
水資源使用量の削減(総量)

達成

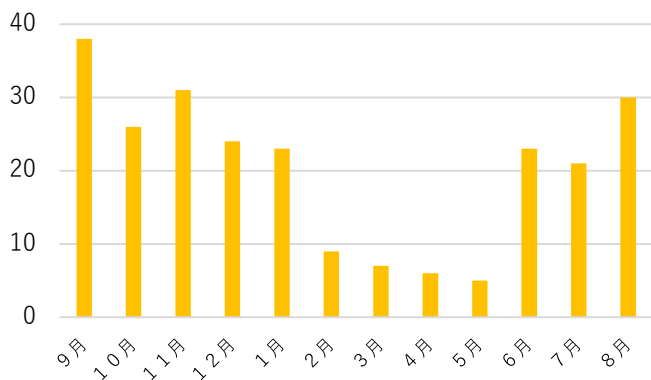


水資源使用量の削減(原単位)

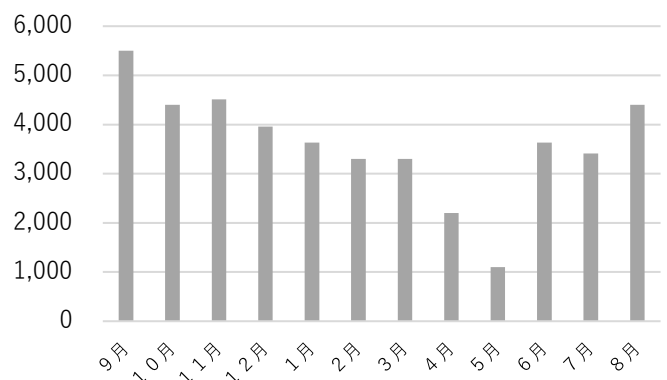
達成



水資源使用量(月)



水資源使用量(円)



水使用の啓発と水量調節ホース(洗車)



タイマーによる水やり

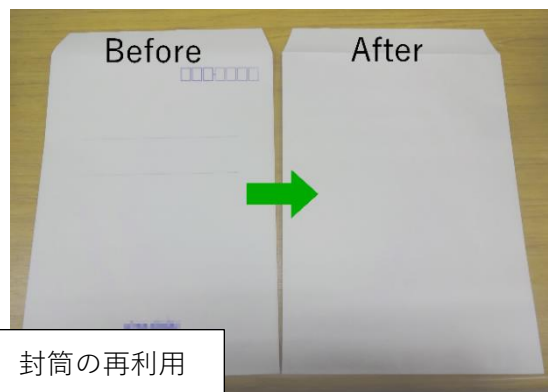
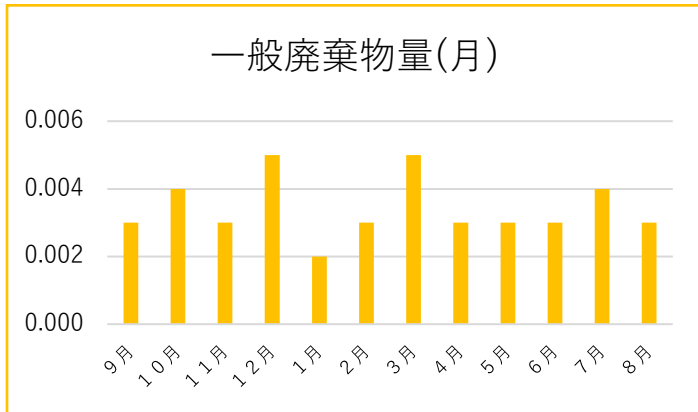
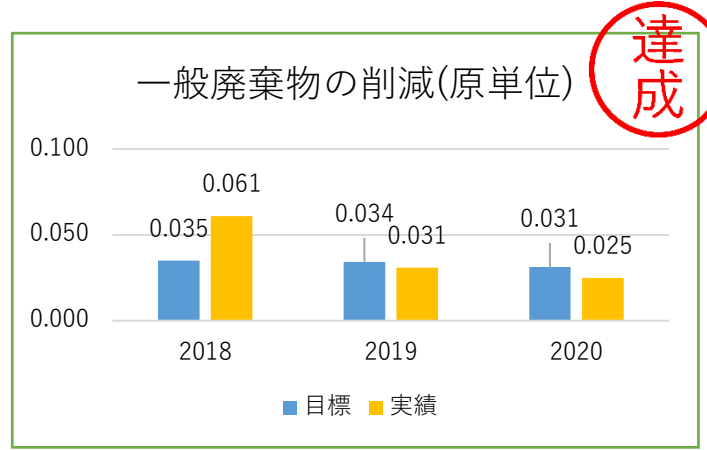
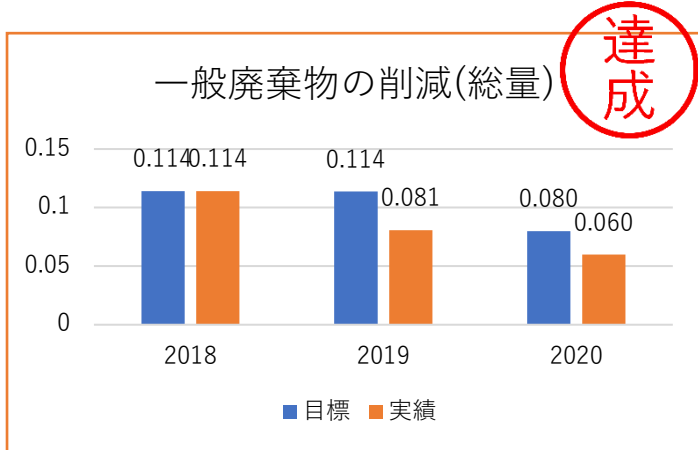


—評価—

目標を達成することが出来ました。
 今年は雨が多く、雨センサーを付けているので散水がなかった分、目標値を超えることがなかった。節水を心がけていますが、山櫻の苗木を育てているので変動があり、大幅に下がることは難しいですが、今後も節水できる部分は行っていこうと思います。

～5. 廃棄物の削減～
事務所(一般廃棄物の削減)

取組内容	評価	評価
封筒・段ボールの再利用	△	上手に再利用ができなかった。
自分用のゴミ箱（マイボックス）を設置し、持ち帰りを実施する	△	持ち帰りができない時があった。
分別・啓発	○	実施できた。



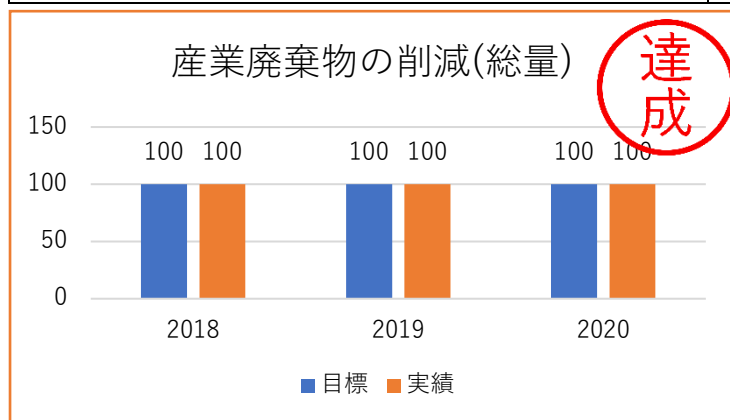
—評価—

目標を達成することが出来ました。

段ボールを減らすために事務用品を買う時は纏め買いを実施しています。大掃除などで出てくるゴミによって多くなることはありますが、今後も継続して再利用などを行い、一般廃棄物を減らしていきたいです。

～5. 廃棄物の削減～
現場(産業廃棄物の削減)

取組内容	評価	評価
マニフェストの管理を徹底する	○	実施できた。
廃棄物を同一種類でまとめて処理する	○	実施できた。
リサイクル可能な処理業者を選定する	○	実施できた。
廃棄物は可能な限り再生利用	○	実施できた。



—評価—

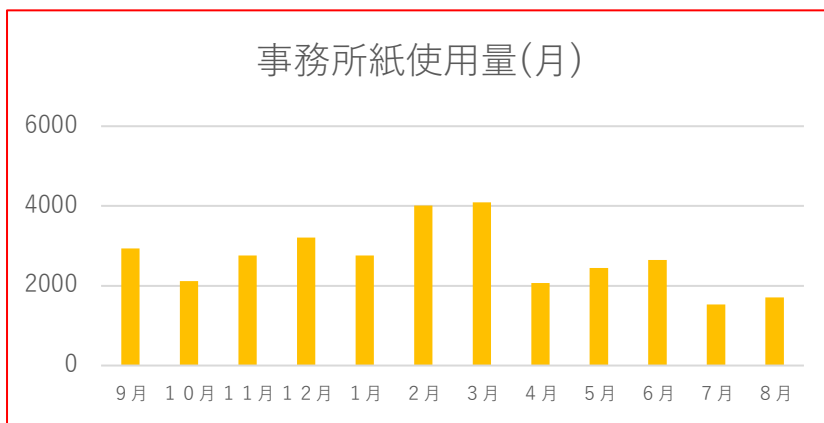
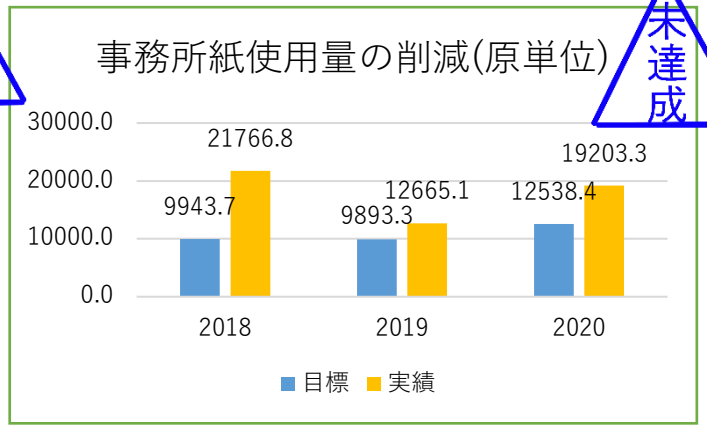
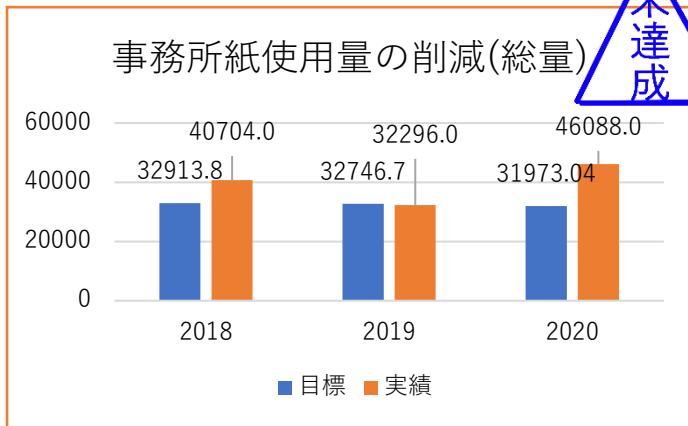
目標を達成することが出来ました。

今年度も各工事現場で廃棄物の分別管理と出来る限りの削減やリサイクルの推進を行う事ができました。工事現場での産業廃棄物は、主に根株とコンクリート殻であるが、廃棄物の発生を抑制する工法を検討したいです。

～6. 事務所紙使用量の削減～

事務所

取組内容	評価	評価
裏紙利用の励行	○	実施できた。
印刷前にプレビューを徹底し、プリントミス・配布資料の削減	△	プリントミスが目立った。
節紙啓発ポスターを掲示する	○	実施できた。



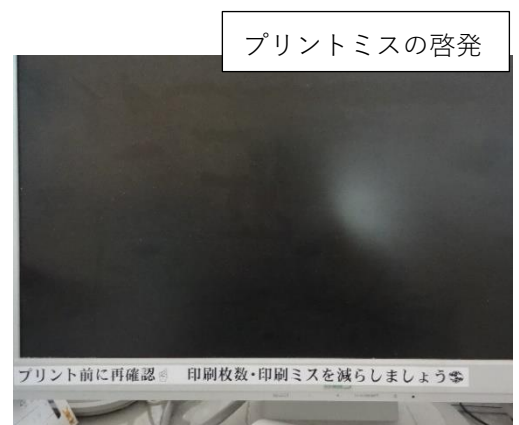
節紙啓発ポスター



裏紙使用中



裏紙 BOX



プリントミスの啓発

一評価一

目標を達成することが出来ませんでした。

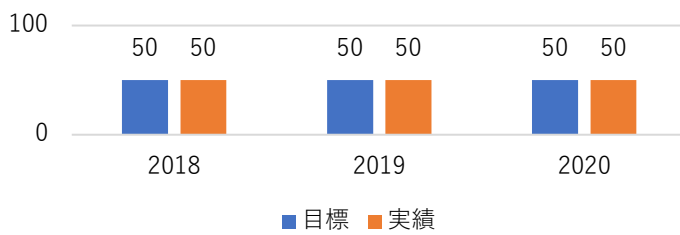
提出書類が多かったこともあり事務所の紙使用量が増加しました。裏紙は使用したい時になかったほど今回はプリントミスがなかったです。今後も継続してプリントミスがあまりでないようにしていきたいです。

～7. 事務所周辺の清掃及び地域貢献活動の推進～

事務所

取組内容	評価	評価
週1回事務所周辺の清掃をする	△	できない日があった。
ロードアドプト事業を年4回実施する	△	年4回できなかった。
年1回ごみゼロキャンペーンに参加する	○	実施できた。

事務所周辺の清掃及び地域貢献活動の推進(総量)



達成

事務所周辺の清掃



ロードアドプト中



—評価—

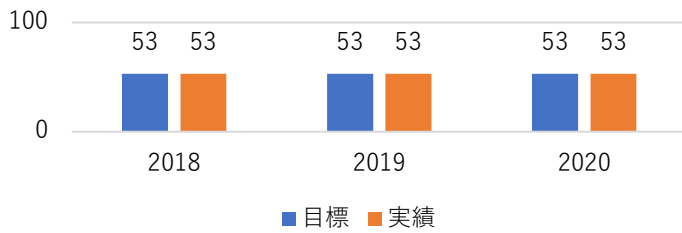
目標を達成することが出来ました。人数が少なく、長雨などで出来ない日がありました。また、今回は高圧洗浄機で細道を綺麗にしました。今後はできる日に回して行いましたが、雨の日の対策を検討していきたいです。

～7. 事務所周辺の清掃及び地域貢献活動の推進～

現場

取組内容	評価	評価
週1回現場周辺の清掃をする	△	できない日があった。
道路・林道の維持管理	△	年4回できなかった。
ロードアドプト事業を年4回実施する	○	実施できた。

事務所周辺の清掃及び地域貢献活動の推進(総量)



達成



林道の土砂撤去中



ロードアドプト開始



現場周辺の清掃中



国道の落石・土砂除去中

—評価—

目標を達成することが出来ました。

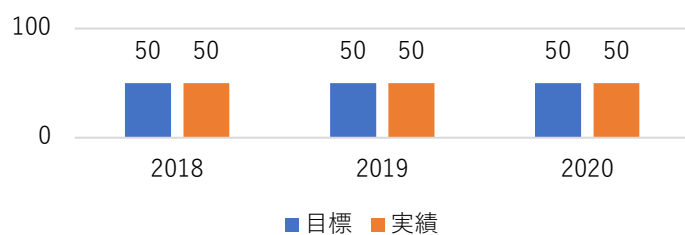
ロードアドプトや現場周辺の掃除は兼ねても行っています。また、林道や国道の土砂・落石撤去にも力を入れています。道路維持管理において、大雨や台風等の緊急時に迅速に対応できるよう、社員の資格充実を図ってまいります。

～8. 環境配慮商品並びにサービス提供の推進～

事務所

取組内容	評価	評価
山櫻の間伐材を利用した商品	○	実施できた。
文具及び材料の調達に際しエコラベル商品を優先して購入する(グリーン購入)	○	実施できた。

環境配慮商品並びにサービス提供の推進(総量)



達成



山櫻のお箸

グリーン購入の商品



—評価—

目標を達成することが出来ました。

山櫻のお箸を那賀町の「ふるさと納税」の返礼品として提供しています。また、グリーン購入法に基づき、エコラベル商品の購入をしました。今後も継続して、環境配慮商品を購入していきたいです。

～8. 環境配慮商品並びにサービス提供の推進～

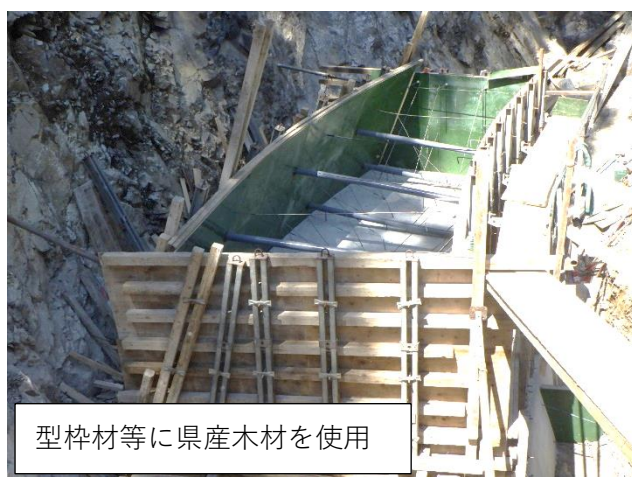
現場

取組内容	評価	評価
工事使用材料に際し、可能な限り環境に配慮した材料を使用する	○	実施できた。
施工に際し、可能な限り環境に配慮した機械の選定や施工方法で行う	○	実施できた。

環境配慮商品並びにサービス提供
の推進(総量)



達成



—評価—

目標を達成することが出来ました。

工事使用材料、環境配慮型の機械の選定は、各工事現場で可能な限り行っていました。今後も継続して、環境配慮の材料や機械を選定していきたいです。

コミュニケーション及び防災・教育

◎内部

事務所にE A 2 1 コーナーを設営しています。今年度から環境省の推進するクールチョイスに企業賛同し、レポートやパンフレットをはじめ環境方針、活動計画、活動状況等、様々な環境関係の情報を掲示・公開し、社員だけでなく誰でも閲覧や持ち帰りができるようにしております。また、内部コミュニケーションには、コミュニケーションボックスとグループラインで従業員からの声を集め EA21 推進会議に反映しています。



◎外部

ホームページやfacebook に続き、Instagram や twitter を開設し、外部とのコミュニケーションに活用しています。また、災害道路状況やイベント情報などを発信、レポートやパンフレット等も掲載し PR を行っております。

廣間組 HP



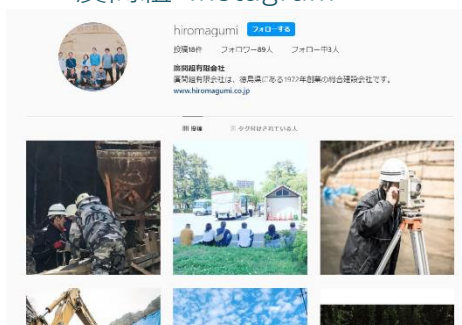
<http://www.hiromagumi.co.jp>

廣間組 facebook



<https://www.facebook.com/hiromagumi>

廣間組 Instagram



<https://www.instagram.com/hiromagumi/>

廣間組 twitter



<https://twitter.com/hiromagumi>



保存飲料水 2.0L 12本×2箱
保存米 50袋
保存パン 60食
を常に常備しています。

ダンボールで作れる簡易トイレを常備しています。



救急箱の中身も定期的に確認しています。



アルコールジェルや非接触体温計を出入り口に常備しています。



消火訓練を行いました。
手順書に従って消火活動を行いました。
地元消防団に在籍している従業員が多いため、スムーズに行うことができました。



BCPの参集訓練も兼ねての安全講習会を開きました。講師は建災防の方やコマツにお願いしました。



去年の山櫻箸



今年の杉箸

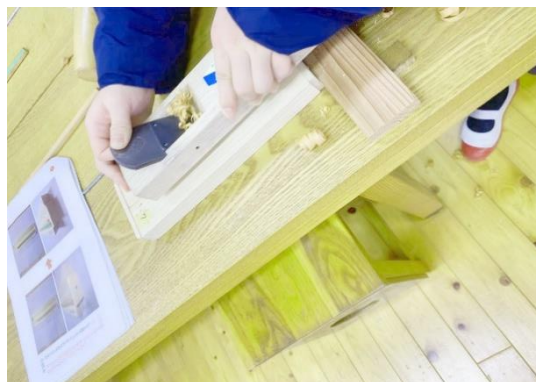
今年の敬老のつどいは式典をせずに記念品だけの発送となりました。本来は山櫻の八角形をお送りするところですが、山櫻のお箸が間に合わず急遽杉箸に変更しました。

生物多様性・低炭素化社会・循環型社会への挑戦

※山櫻プロジェクトから任意団体山櫻プロジェクト会へとなり、支援を行っている。

-山櫻プロジェクトとは-

里山の原風景を彩るサクラ。春になればその美しい花色と味わい深い立ち姿で、私たちの目と心を楽しませてくれます。その中でも、とりわけ私たち日本人と馴染みの深いヤマザクラが、ここ那賀町木頭においても近年減少傾向にあり、その存続を危惧されつつあります。私たちはこのヤマザクラを『山櫻』と称し、町内産山櫻の実生から育成した苗木を地域の林地等に植樹する事で、その保全（**生物多様性への配慮**）と、CO2の吸収・固定（低炭素化社会の推進）を同時に図りながら、地域に山櫻の名所を誕生させていく活動を行っています。また、間伐や自然災害等で発生する倒木や古木の山櫻の未利用材からお箸や食器などの木工製品を制作し、売り上げの一部を植樹活動に使用する事で資源が**循環する仕組み**をとっております。さらに山櫻プロジェクトを架けはしとして、地域の様々なコミュニティと共同活動を展開し、那賀町木頭**地域の振興**に向けた地域ネットワークの醸成に寄与する事を目指しております。



令和3年2月5日
木頭学園で著作り
体験を行いました。
今年は6年生、9年
生合わせて7名に教
えました。



令和2年11月29日
会員や地域の方と
ともに、植樹した山櫻
の成長に合わせてネ
ットの張替えを行っ
た。

山櫻プロジェクト会 HP

山櫻プロジェクト会 Twitter

山櫻プロジェクト会 Instagram

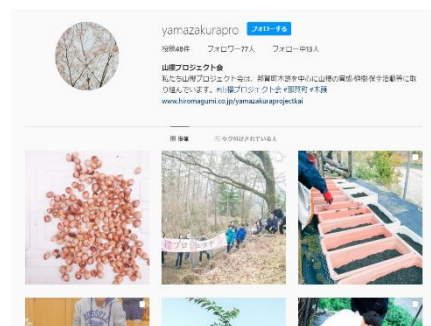
山櫻プロジェクト会



<http://www.hiromagumi.co.jp/yamazakuraprojectkai/index.html>



<https://twitter.com/yamazakuraP>



<https://www.instagram.com/yamazakurapro/>



令和 3 年 2 月 28 日地域の方の
依頼を受け、会員や地域有志の
方総勢 15 名で山櫻を 24 本植樹
しました。



令和 3 年 3 月 24 日
阿波おどり会館とのコラボ商品
『阿波結』の販売を記念して眉
山に植樹を行いました。



令和 3 年 3 月 27 日
毎年行われている植樹を会員や地
域有志の方総勢 32 名で 40 本の山
櫻を植樹しました。



昨年植樹したしだれ桜が春には満開
の花を咲かせました。



草刈りなどを行
い、植樹地の
整備管理を行
ってます。

次年度環境経営活動計画表

項 目		取組事項	事務所	現場
二酸化炭素排出量の削減	□燃料使用量の削減	重機車輛・通勤車輛の日常点検	○	○
		エコドライブ10の実施	○	○
		低騒音・排出ガス対策車の使用		○
		高燃費・低排出ガス車の使用	○	
		乗り合わせの励行及び車内温度の自然調節	○	○
	□電力使用量の削減	OA 機器の節電啓発	○	
		事務所の間引き点灯を行う	○	
		節電啓発ポスターを掲示する	○	
		エアコンの温度設定（冷房 28℃、暖房 20℃）	○	
□水資源使用量の削減		雨水を利用し、節水を行う	○	○
		水量調節ホース・タイマーの使用	○	
		節水啓発ポスターを提示する	○	
廃棄物の削減	□一般廃棄物の削減	封筒・段ボールの再利用	○	
		自分用のゴミ箱（マイボックス）を設置し、持ち帰りを実施する	○	
		分別・啓発	○	
	□産業廃棄物の削減	マニフェストの管理を徹底する	○	
		廃棄物を同一種類でまとめて処理する		○
		リサイクル可能な処理業者を選定する		○
		廃棄物は可能な限り再生利用		○
□事務用紙使用量の削減		裏紙利用の励行	○	
		印刷前にプレビューを徹底し、プリントミス・配布資料の削減	○	
		節紙啓発ポスターを掲示する	○	
□事務所周辺の清掃及び 地域貢献活動の推進		週1回事務所・現場周辺の清掃をする	○	○
		道路・林道の維持管理		○
		ロードアドプト事業を年4回実施する	○	○
		年1回ごみゼロキャンペーンに参加する	○	
□環境配慮商品並びに サービス提供の推進		山櫻の間伐材を利用した商品	○	
		文具及び材料の調達に際しエコラベル商品を優先して購入する(グリーン購入)	○	
		工事使用材料に際し、可能な限り環境に配慮した材料を使用する		○
		施工に際し、可能な限り環境に配慮した機械の選定や施工方法で行う		○



環境関連法規制等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

※環境関連法規制等への違反はありません。また、関係当局より違反等の指摘は、過去３年間ありません。※

適用される法規制	適用される項目	評価
■環境基本法	■自然環境の保全措置	○
■グリーン購入法	■環境物品購入	○
■地球温暖化対策推進に関する法律	■温室効果ガスの排出の抑制	○
■環境配慮事業促進法	■事業活動に係る環境情報の提供	○
■廃棄物の処理及び清掃に関する法律（産業廃棄物）	■委託契約、許可証の確認、マニフェストの保存義務	○
■廃棄物の処理及び清掃に関する法律（一般廃棄物）	■ゴミの分別排出。野外焼却の禁止	○
■建設リサイクル法	■分別解体、再資源化の促進	○
■特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）	■特定家庭用機器の適正処分	○
■浄化槽法	■浄化槽の処理後でなければ公共用水域に排水禁止	○
■大気汚染防止法	■機関事に期日を守り、書類を届出。	○
■オフロード法	■基準適合機械の使用	○
■騒音規制法 ■振動規制法	■作業敷地境界(騒音)85db 以下(振動)75db 以下 (ただし作業時間、期間の規定あり)	○
■特記仕様書	■特記仕様書に準ずる。	○
■徳島県脱炭素社会の実現に向けた気候変動対策推進条例 ■徳島県生活環境保全条例	■事業者は気候変動対策に関する取組みを積極的に行い、県が実施する気候変動対策に協力するよう努める。	○
■那賀町廃棄物の処理及び清掃に関する条例	■一般廃棄物の分別。	○
■那賀町景観条例	■良好な景観の形成に寄与・施策に協力	○

代表者による全体評価と見直し結果

対象	変更の有無	評価
■環境方針	☐ 有／ ☒ 無	今後も環境方針を基軸に取組みを行う。しかし、目標はあくまで目標であり、達成できたとしても『常に今が最低』という意識で臨み取り組んでいかなければならない。また、数値目標だけにとらわれ過ぎず、『何の為にやっているのか』という本来の目的を見失わないよう、常に基本理念に立ち返り、より良い環境経営を目指していく。
■目標・計画	☐ 有／ ☒ 無	継続
■その他	☐ 有／ ☒ 無	現在の実施体制で実施する。

今年度の事務所は「電力使用量の削減」「事務所紙使用量の削減」、現場は「二酸化炭素排出の削減」「燃料使用量の削減」が総量・原単位ともに未達成となった。事務所の電力はやはり冬場の暖房機によるものであり、事務所紙は提出書類の増加が関係した。現場の燃料は目標の倍ほどの使用となったことに比例し、二酸化炭素量が増加した。取組を行ったが目標を下回ることができなかった。このことを踏まえ、もう一度従業員の中で再認識をさせるとともに取組内容を他にはないかと考えることにした。また、清掃活動や山櫻プロジェクトのボランティア活動にも力を入れていきたい。